

「先輩の実績は後輩へのプレゼント！」

後輩の実績は先輩のステイタス！」

という想いを込めて、みなさんに贈ります。

昨年度入学した先輩から君へのメッセージ集

『この一年間で私は…』

大阪学園大阪高等学校 第七十八期生（二〇二三年度入学）

探究コース

『何かに挑戦してみて』

菅原 脩矢 (大阪市立天満中学校出身)

私は大阪高校に入学してから新たに出来るようになったことがあります。それは自ら何か挑戦してみることです。高校に入学してすぐの頃は、何かやってみるにしてもめんどくさいと思ってしまうたり、あまり興味が湧かなかつたりと、どれもこれも避けてきました。しかし、高校に通っていく中で出来た友達に「手伝って欲しい」と誘われて、オープンスクールの運営に参加することになりました。そのオープンスクールに携わっていくなかで、中学生の頃では知ることの出来なかつた自分が知れたり、色々な人と関わっていくなかで新しい出会いがあったり、様々な経験ができてとても新鮮でした。そこからは海洋生態や京大アカデミックデイなど、少しずつイベントに参加するようになり色々な思い出が生まれました。今では最初にオープンスクールに挑戦してみて良かったと思えているし、これまで参加して学んだ内容から2年生ではもっと他にも挑戦してみたいと考えています。

『成長した1年』

中島 かな (吹田市立第二中学校出身)

私はこの1年間で何事にも挑戦する力を身につけることができました。中学生の頃、私は人と話すことや新しいことに挑戦することが苦手でした。そのため、人と話すことを極力避けたり、何か新しいことに興味を持っても手をつけることに戸惑ったりすることが多かったです。このような性格を直し

たいと思い、私は大阪高校の探究コースを選びました。入学式の翌日のオリエンテーション学習合宿では探究の基本を学び、入学式で初めて会った仲間と一緒に探究の授業を受けました。最初は緊張していましたが、時間が経つにつれて緊張がほぐれ自分を出せるようになり、友達もできました。自分を出せるようになったのは探究を学ぶ時、木ノ脇先生が最初におっしゃっていた「人の意見をバカにしない」という言葉で、探究コースの人達は自分の意見をバカにせず受け入れてくれるということを知り、安心して自分を出せるようになりました。最近の学校生活でも自分らしさを出し、意見を出したり色々な行事や生徒会に挑戦したりすることができ、高校生活を満足して過しています。

『成長した自分』

箱 ひなた (大阪市立堀江中学校出身)

私はこの1年間を通して、心の成長・人間関係・集団活動を学び、成長することができました。入学式で初めて入ったR組の教室、始業式の日に行つたオリエンテーション学習合宿では知らない人たちと一緒にグループ活動をして探究基礎の授業を受けました。探究基礎の授業では、先生がテーマを言い、それについて外に行ったりして調べました。グループワークのおかげでグループの友達と話せるようになりました。探究基礎のグループ活動では、新しい出会いと探究についての心の成長があったと思います。

集団活動では、行事で色々な人と関わりができたと思います。2学期にあった「探究祭」では探究であまり関わつたことがなかつた、3年生の人達とも関わる事ができました。とても優しくしてくれて「探究祭」が終わつた今でもよく話すので、とても良い先輩ができました。「探究祭」以外にもオ-

プンスクール企画運営委員会に入りました。学年もバラバラですが様々な人と関われたと思います。

また、球技大会と体育祭が思い出にあります。球技大会ではみんなが仲良くなり、協力して団結できたと思います。体育祭では、学年関係なく団を応援しました。探究コースは青団で、探究の2年生の先輩たちと関わることができました。この1年間で、今までの私と比べると、触れてきていなかったものに触れられたと思います。初めての経験をしたこともたくさんあり、良い経験ができたと思います。

『大高に来てから1年間の成長』

増山 寛人 (伊丹市立松崎中学校出身)

私は大阪高校に来て、中学生の時よりも成長し、変わったと思います。なぜ変わったかと言うと、理由は2つあります。

1つ目は、大高の行事に積極的に参加したことです。私は中学生の時、学校の行事は全然興味が無かったのですが、この高校に来て行事を盛り上げようとする姿勢にひかれ、一緒に行事を盛り上げたいなと思い参加したことが理由です。

2つ目は、中学の時より他の人に話しかけられたときに緊張しなくなったことです。中学の時は人と喋るだけで緊張していました。でも大高に来てNプロジェクトという企画で周りの人と喋る機会があり、それで回数を重ねるにつれて、どんどん人と話すことに慣れてきて、今では人と喋ることが好きになるくらいに成長しました。中学の時はそういう企画などはありませんでしたが、この高校に来て、楽しい企画や行事がいっぱいあり、とてもいい経験ができたなと思います。

『部活』

大塚 逸平 (箕面市立止々呂美中学校出身)

私は小中一貫校に属し、義務教育を9年間同じ仲間と過ごしました。そのため高校では、初めて知らない人たちと同じ場所で過ごすので、とても怖く、友達作りも自分からはできず、毎日がとても不安でした。

そんな自分が変わったのが、硬式野球部に入部して出会った仲間でした。入学した頃は、チームメイトの庄に負けていて、メンタルや気持ちの面で追いつかないことがありましたが、今の仲間とともに苦難を乗り越え、たくさん関われたからこそ、今の野球やチームメイトが大好きな自分がいます。

部活のみんなとも、これから仲良く、お互いを高め合えるような関係で居続けたいなと思っています。「自分1人ではできないことだつて、仲間がいれば乗り越えられる」と私は思うので、仲間を大切に、将来でもずっと関わっていけるような人間関係を学ぶことができました。

『踏み出す力』

神田 彩莉 (大阪市立春日中学校出身)

私は挨拶をすることが凄く苦手でした。人見知りというのもあり、小さい頃からはじめましての人に挨拶や話をするのを避けてきました。

でも、お母さんが美容師で接客業だったため、あいさつを避けることの出来ない日が続きました。そのため、私はお母さんのお店に行くのを避けたり、新しい人と会う時はなるべく行かないようにしていました。高校に入学し、ほとんどが知らない人で、中学生の頃みたいに知っている人がほとんどという訳にもいかず、どうしても人と話さないといけない状況だったので、私に

とつてはとても不安な場所でした。

そんな中、同じクラスになったある子に「マナージャー入ってくれん？」と声をかけてもらい、それがきっかけでマナージャーとしてクラブに入部しました。初めはサポートだけだと思っていて、人と関わる機会が非常に少ないと思っていました。

しかし、人と関わることで、人とコミュニケーションをとることなど、人と関わることを避けられない部活だと入って初めて気がつき、入ってすぐに辞めたいという感情が出てきました。しかし、ここは、乗り切るしかないと思い、私は考え方を考えるよう意識しました。

その日から「人見知り」を言い訳だと思い、「人と話すことは恥ずかしいことじゃない」と思うようになりました。そして、今の自分に目標を立てようと決意しました。その目標が「毎日人と話す」「恥を捨てる」「きちんと挨拶をする」この3つです。入部して半年が経つ頃にやっと、人に挨拶するのが恥ずかしくなくなり、堂々と挨拶できるようになりました。今では部活に入ったことが自分を成長させてくれたと感謝しています。

『勉強への変化』

北畑 柁司（高槻市立阿武野中学校出身）

私は中学生の頃からずっと勉強が嫌いでした。テストの点数も良くはなく、平均前後の結果ばかりでした。「ただ座って、ただ聞く、ただひたすら書く」それが勉強だと思っていたかもしれない。勉強はつまらないと感じ、少しでも変化のある勉強がしたいと思っていました。

私は今では、クラスでトップレベルの点数を取ることができています。しかしそれは元々頭がいいから、必死になって勉強をしたからではないと思

ます。大高の探究コースが、他のコースや他の学校と違う授業スタイルで、自分は面白いと感じたからだと思います。探究コースの授業では、ペアワークやグループワークを中心とした授業が多く、ただ座ってただ聞くだけの授業ではありません。私は授業というものが面白く感じ、内容が良く分かるようになっていく感覚がありました。

勉強が「嫌い」から「嫌いではない」に考えが変わり、大きな変化があったと思います。

『一年間の自分』

伊原 悠翔（島本町立第二中学校出身）

私はこの一年間を通して「友人と一緒に努力する」という意味を知ることができました。高校生になり、バスケットボール部に入り、毎日練習をしていると、自分の未熟さにいつも心が折れていました。しかし、夏休みに入ってから、友人と朝早くからシューティングやドリブル練習をしました。友人は自分の出来ていない所や気づいていない小さなミスを指摘してくれて、うまくなくていく実感を持つことができました。試合時では、ドリブルで相手を抜いたり、シュートを決めたりすることができ、仲間と共に努力することでお互いを高め合い、自分を変化させることができ嬉しかったです。勉強面でも、自分が分からないところがあつたら友達に聞くことが増えました。また、質問されることも多くなり、それにつれて成績も上がっていききました。友達と共に努力していくことには意味があることを実感することができました。

このことから、チームメイトや友達とのコミュニケーションの取り方で自分をこんなにも変えられるということを知ることができたので、これからも友達を大切にして頑張っていきたいと思います。

『学び』

稲村 咲良（大阪市立宮原中学校出身）

この一年間で私は、様々なことを経験して学びました。それは大阪高校に

入学したからこそできたことだと思います。

一番大きかったことは京都大学と連携して進めている「NPプロジェクト」です。これは京都大学の中村助教を中心に様々な大学の教授、大阪高校の先生、生徒で最先端科学を学んでいくというプロジェクトです。ここでは普段の学校生活では体験・学ぶことができないことがたくさんありました。例えば、千葉県にある量子科学技術研究機構という場所に行き、放射線を利用した実験をしたり、放射線被ばく事故が起きた際に対応するための施設を見学しました。また、千葉県科学館へ行き、千葉の教育委員会の方や科学館の方に自分たちが調べた放射線についてのプレゼンテーションをしました。このような活動を通して、知識だけでなく、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など様々な力をつけることができました。これからもこのような活動に積極的に参加していきたいと思えます。

『一年間で変化したこと』

池田 梨華（大阪市立大淀中学校出身）

私がこの一年間で変化したことは社交性です。中学時は受け身になりがちで、人に話しかけることが苦手で、相手の人から話しかけてくれないと話せないことが多かったです。しかし、大阪高校に来て、最初のオリエンテーション学習合宿の時に、自分から話しかけることができました。オリエンテーション学習合宿があると聞いたときは、まったく知らない他人と二日間も宿泊できるのか不安でいっぱいでした。勇気を出して話しかけると、優しく返してくれたので、そこから不安がなくなっていきました。今では積極的に話しかけられるようになったり、先生に分からないところを聞いたりできるようになりました。

これからも中学校の頃にできなかったことができるように成長していきたいと思っています。

『ガチる』

加藤 昂生（大阪市立宮原中学校出身）

皆さんは今までの人生で何かに本気を出す、「ガチ」でやってみるといった経験はありますか？部活・趣味・勉強など。私は、中学校生活で本気を出し切ったことは一度もありません。部活動は一年の時に辞め、テスト勉強もほどほどで、提出物は出さず、遅刻・欠席も多い。

私から皆さんに伝えたいことは、本気を出し続けてほしいということです。私が言えるような立場ではありませんが、反面教師として伝えられることはあります。私は高校から演劇部に入部しました。演劇なんて全くの無縁でした。そこでは、人と環境に恵まれ、本気でやってみようと、いつの間にか思っていました。今でも本気を出し続けています。今の自分は中学の自分よりも幸せです。この経験は、卒業時に将来演劇の仕事に就かなくても、未来の自分を支えてくれる経験になると確信しています。私はこれからも『ガチ』り続けていきます。

『この一年で私は』

酒井 楓（吹田市立西山田中学校出身）

この一年間で私が学んだことは二つあります。まず一つ目は、行事や取り組みを全力で行うことです。高校に入ってから、文化祭や体育祭など、様々

な行事がありました。文化祭のダンスを家で練習したり、体育祭では応援団に参加したりするなど、中学生の時よりも、行事に積極的に動くようになりました。そのため、たくさんの思い出ができました。

二つ目は委員会やコラゼミに参加することの大切さを学びました。私はOS委員会や学園祭委員会に入りました。はじめOSは、生徒ではなく、学校の先生が行うものだと思っていました。気になって入ってみると、想像以上に楽しくて、どのようにすれば中学生や保護者の方が来てくれるのかを考えたりして、学びがとても多くありました。学びながら、楽しく活動でき、本当に入ってよかったと思います。

私の今後の目標は英検二級を取得することです。夏休みには、海外留学にチャレンジし、その国の文化や言語について深く学びたいです。将来に向けて英語の力を高めて、志望する学校に行きたいと思っています。

『この一年で私は』

寒川 琴音（大阪市立大宮中学校出身）

私はこの一年間で「一人で踏み出すこと」が出来るようになりました。中学時代は、多くの人と関わりたくないという理由から、先生に勧められた生徒会も、友達に勧められた委員会も、「私には合わないから」と断ってきました。何もできなかったと後悔したくないと強く思い、私は大阪高校入学時に、「全てにチャレンジする三年間にしよう」と決めました。コラゼミ・ラボ・夏期講座・委員会など、数々のプログラムに参加してきました。最初の方は、「やると決めたから」と勢いで挑戦出来ましたが、途中からは、来年もあるし、友達はやらないらしいし、と参加しない理由ばかりを考えてしまうこともありました。しかし、入学時の「後悔したくない」という思いを持ち続け申し

込みました。いざプログラムが始まると、同じグループになった先輩方と話したり、大学から来られた教授の方々のお話を聞いたり、次第に楽しみだと感じるようになりました。興味のある分野以外のプログラムに参加することもありましたが、新しいことを知るのが好きな私は、多くのことを楽しみ学ぶことができました。

経験の三年間にできるよう、また納得のいく夢を見つけられるよう、これからも挑戦していこうと思います。

『優しいをみんなに』

翁 晴 (大阪市立此花中学校出身)

私はこの一年間で、たくさん優しい人に出会いました。最初のオリエンテーション学習合宿の時、クラスのみんなと仲良くなることができました。私は中国人で日本語はあまり上手ありませんでしたが、みんなは優しく「日本語上手だね!」「中国語話せるのすごい!」と声をかけてくれました。まだ理解していない日本語も辛抱強く聞いてくれます。高校の担任や授業をしてくれる先生たちも優しく、私が理解していなかった知識や興味を持てるような知識を親切に教えてくれました。

放課後、家に帰る時に狭い道をおばあちゃんに譲ったら、おばあちゃんが「ありがとう」と言ってくれました。小さい行動でも大きい優しさ幸せを感じました。

これまでの私は人とのコミュニケーションが苦手で、恥ずかしがり屋でしたが、この一年間で小さいかもしれないけど、私の中で変化が起こったと思います。周りの人たちが私のことを支えてくれて、悲しい時は励ましてくれたり、頑張った時は褒めてくれたり、私はたくさん優しさと幸せを感じま

した。これからも人に優しく、優しさと幸せをみんなに伝えていきたいです。

『文武両道』

橋田 純汰 (大阪市立瑞光中学校出身)

この一年間で、私は部活動と勉学の両立をはかり「文武両道」を目指して活動してきました。

入学当初から一学期にかけては七限授業や日本拳法部の部活動で、毎日が疲れ果てて帰宅するという状況で思ったような日々ではありませんでした。正直言って面白くない日常を送っていました。しかし、勉強の面では各教科担当の先生が、部活動の面では顧問の先生とコーチがサポートしてくれたおかげで、少しずつですが自分にできることが増え、余裕も生まれてきました。また、毎日の道着の洗濯や学費の支払いなどで両親が一番親身になって私を支えてくれました。

そんな私を支えてくれる人々に恩返しをするためにも「文武両道」を掲げて日々活動をしています。まだまだ理想の形には程遠いですが、少しでもそこに近づけるようにこれからも努力していこうと思います。

『一年の目標』

森本 希良 (伊丹市立笹原中学校出身)

私はこの一年間、ある一つの目標を設定して、大阪高校での一年間を過ごしてきました。

その目標とは英語検定と漢字検定の準二級に合格するということです。ど

ちらとも準二級は高校在学レベルで、とてもじゃないですが勉強が苦手だった私にとっては容易に合格できるような内容ではありませんでした。先に結果を言いますと漢字検定は合格し、英語検定は一次試験に合格することができました。

ではなぜ私がこのような目標を立てたのかということですが、これには二つの理由があります。一つ目は自分を成長させたかったからです。こういった試験を受けることで結果が目に見えて分かることにより、成長を実感しやすく、勉強に対するモチベーションも維持しやすと考えました。二つ目はこういった試験に合格することで受けられる大学の選択肢を増やし、将来の可能性を広げたいと考えたので、高校一年生でこの二つの試験に合格するという目標を立てました。

来年はさらに難易度は上がりますが、一生懸命努力し、漢検、英検ともに二級合格を目指して精進していきたいです。

総合進学コース

『成長できたこと』

橋本 莉奈 (大阪市立木津中学校出身)

私がこの一年間で成長したと感じたことは、自ら挑戦しようとする行動力が身に付いた事です。私が中学生の時は、挑戦してみたいけど今は少しやめておこうと、行動に移すことができませんでした。しかし、大阪高校に入ってから、自分の意志で行動させてくれる機会が多く、それがきっかけで挑戦しようとする行動力が付いてきました。そのおかげでオープンスクール企画運営委員会などにも参加でき、いろんな人と関わることができました。

私の中で、自ら挑戦しようとする行動力が付いたことは、とても成長できたことだと感じるし、これからも日々成長できるように感じました。来年も再来年も、まだできていないことに挑戦し続けて、交流を増やしたり、自分の自信につなげていけるように、頑張って二年間を送っていきたいです。

『努力』

日野 星聖 (大阪市立此花中学校出身)

この一年間で私は中学校ではあまり真面目にしてこなかった勉強を頑張りました。高校生になって最初のテストの順位は良かったのですが、二回目のテストは一回目のテストよりも大きく点数が下がってしまいました。そして周囲の友人やクラスメイトが勉強を頑張って、私よりもいい点数を取り始めました。そこで、今まであまり頑張ってこなかった勉強を始めるようになり

ました。そして三回目のテストではクラス順位で十位以内に入ることができました。そこでさらに、私は今まで勉強をせずにいた分まで取り戻せるように、さらに勉強を頑張ろうと決意しました。勉強をすることによって私は様々なことに気づくことができました。初めに勉強をする楽しさです。今までできなかったことができるようになることが、うれしかったです。そしてもう一つが努力する大切さです。努力すれば今までにない成長ができると気づくことができました。

『成長したこと』

森本 紗羽 (吹田市立山田中学校出身)

この一年間で私は、様々なことを経験し成長しました。特に勉強に関して成長できたと感じています。中学の時の私は、勉強があまり得意ではありませんでした。しかし、大阪高校に入学し、自ら学習に取り組みようになりました。

それは、自分が勉強を頑張って、テストで高得点を取ると、成績が良くない進路の幅が広がることに気づいたからです。さらにテストで高得点を取ると順位が上がりに、目に見えて結果が分かかります。それが勉強のやる気になり、もっと勉強しようと思えるようになりました。また、テストのランキングに載ると、廊下に張り出されるので友達にも褒められ、次も頑張ろうと思うことができました。

まだまだ、至らない点はありますが、中学の時と比べたら成長したと思います。二年生では、今よりもっと成長し、未来の自分の為に努力し続けたいと思います。

『変化』

乾 仁大（大阪市立東中学校出身）

私がこの大阪高校に入学して変化したきっかけは部活動です。私は、中学校時代に野球部に所属していました。小学校からソフトボールをしていたので、そのまま高校でも野球を続けると思っていました。いざ入学して部活動体験にいったとき、バレーボールがとても楽しいと感じました。元々両親がバレー経験者だったので、何回かボールに触れる機会はあったのですが、あまりしつくりきませんでした。でも少し真剣にしてみると、バレーボールの楽しさに気づき、入部することに決めました。最初は全くできなかったけれど、先輩方が教えてくれたり、先生がバレーの身体の使い方を丁寧に教えてくれたりして、試合ができるようになるまで成長しました。

やると思っていなかったバレーボールをして、野球をやめたことに後悔はありません。新しいスポーツをするときは大きな決断がいると思うけれど、その決断も人生のいい経験になったと思います。

『勉強』

下村 果穂（茨木市立東雲中学校出身）

私は大阪高校に入学してから、テストへの勉強の仕方を中学校のときと変えてみました。

なぜ変えたのかというと、行きたいと思っていた高校に落ち、高校受験を甘くみすぎてしまっていて、ちゃんとした勉強ができていなくて本当に悔しい思いをしたので、これ以上嫌な思いをしないように定期テストなどでコツコツ勉強をしていこうと思ったからです。どのように変えたのかというと、

友達と一緒に勉強して分かるところは教えあったり、分からないところがあればすぐに先生に聞いたり、答えを写して終わりにするのではなく解き方をちゃんと理解するというのをしました。その結果、一人でするより集中して取り組め、前より勉強するのが楽しくなりました。

私がこの1年で真面目に勉強できたのは色々な人に助けってもらえたからです。これからも、周りに感謝していこうと思います。

『友達を作るために』

滝澤 柊（大阪市立三国中学校出身）

私は元々、人と話すことがあまり好きではなく、中学校の時もほとんど決まったメンバーだけで休み時間を過ごしていました。高校に入学した時も、あまり周りの人と喋っておらず、中学校が同じだった友達だけと話していました。でも、二年生になった時に同じクラスになれるわけでもないし、何より高校生活の一年を同じ友達だけで過ごすのは勿体無いと思いました。だから、勇気を出して自分から話しかけることにしました。自分から話しかけると案外話するのが楽しくて、色々な人と話しました。

今まで話せる友達が一人でもいればいいと思っていましたが、自分から話しかけに行って友達を作ること、学校生活がとても楽しくなったと思います。今まで誰かが話しかけてくれるのを待っていました、自分から勇気を出して友達を作ることの大切さを知ったと思います。

『まえだいちか成長記録』

前田 一華 (池田市立北豊島中学校出身)

私はこの一年で数知れないほどのことを学びました。そして大きな成長を得ました。その中でも最も成長したことを二つ、ご報告したいと思います。

一つ目は「学力」です。中学のとき、私は勉強が大の苦手でした。勉強をしてもテストで良い点は取れなかったし、それなら友だちと遊んだ方が楽しいからと遊んでばかりいました。しかし、高校に入り仲良くなった友だちが頭の良い人たちでした。その人たちいたら次第に「勉強しないとまずいのではないか」と思うようになりました。そして中学とは勉強方法を変え、いつも以上に机に向き合いました。すると、今までに取ったことのない高得点を取ることができました。これが私の一つ目の成長です。

二つ目は「友だちの数」です。私は元々友だちをつくるのが得意で、中学でもみんなと仲良くなっていました。だから高校も大丈夫だろうと思っていました。しかし、入学が近づくとつれ、知っている人が入学者のうち二人という中で、はたして本当に友だちをつくることができるのかと思いはじめました。そして、不安がある中で入学式当日を迎えました。私は緊張でガチガチでした。そして教室に入り、自分の席を探しました。でも自分の席である場所には人が座っていました。話しかけることができなかつたので、その席の後ろに座りました。しばらくすると、前の席の子が席を間違っていることに気づき、謝ってくれました。私はその子のおかげで緊張が解けました。その子とは、オリエンテーション学習合宿のバスで隣の席になったのがきっかけで仲良くなりました。今でも仲良しです。緊張が解けていつもの力を発揮することができ、今では数多くの友だちができました。日々更新中です。

二年生になっても自分の成長を日々更新したいと思います。

『この一年間で私は・・・』

樋口 克弥 (茨木市立養精中学校出身)

私が大阪高校に入学しようと思った理由は、中学校の三年間で頑張ってきた部活を高校になっても頑張ろうと思ったからです。高校に入ってから目標は、入学前と同じで部活動のバレーボールを全力で頑張り、友達をたくさん作って楽しい高校生活にすることで、それを目標に日々生活してきました。その目標を達成するために今まで努力してきたことは、部活動の朝練にできるだけ休まず行き、難しいことなど様々なことにチャレンジしたことです。また、部活動以外では将来の夢に向けて様々なゼミやラボを受けてみたり、自分で情報を集めたりしてきました。その結果、部活動では少しずつバレーボールの技術が上がってきて、もっとバレーボールが好きになりました。将来のことについては、調べるうちにどんどん興味湧いてきました。

今後の目標は、部活動を全力で頑張りながら将来の夢に一步でも近づくため、勉強も少しずつ頑張るといことです。

『一年を通して』

柏原 彩香 (島本町立第一中学校出身)

私はこの一年で成長したこと、努力したことがあります。

まず一つ目は、部活動です。中学の頃の私は人前に立つのが本当に苦手でした。そんな自分を変えるためにこの大阪高校のダンス部に入部しました。ダンス部の活動の中で文化祭などのたくさんの人の前で踊れるようになり、少し人前に立つことが苦手と思わなくなりました。私は未経験で入部したので周りの皆との差がすごくあります。しかし、日々練習を重ねるうちに少し

ずつとできるようになっていきました。そこから努力をすれば結果は出るのだと改めて感じました。

さらに二つ目は、勉強です。私は中学生のころに一度も英語検定を受けたことがありませんでした。大阪高校では年に二回受ける機会があるため、初めて受験しました。英語が苦手な教科なので合格するために努力しました。また、中学生の頃は定期テストの点が低かったのに対して、高校生になり点数が上がリ、もつと上の点数を目指せるように毎日努力しました。

最後に、私は二年生では今よりも部活と勉強を頑張り、両立することができるとなりたいです。

『二つの一年間で私は』

山口 大和 (箕面市立彩都の丘学園出身)

私は高校生になる前、大阪高校のオープンスクールに行ったことがありません。オープンスクールの内容はとても良く、今でも鮮明に覚えています。さらにこの学校独自のイベントであるラボなどに興味があり、この学校に入学しました。

入学早々、オリエンテーション学習合宿に行きました。二泊三日の宿泊行事は他の人たちと交流するというもので、コミュニケーションを取り、とても緊張したことを覚えています。あの日から一年が経った今、考え方が大きく変化しました。

勉強に対する考え方や、友達との関わり方などが大きく変化したのは、この学校で得た様々な『経験』からです。この学校は多くの物事を体験できる学校だと思っています。これからは、経験を積むために様々なことに『挑戦』していく一年間になりたいと思います。

『一年間の私』

引口 愛梨 (茨木市立南中学校出身)

私は中学三年生の時、自分を変えたいと思い、チャレンジができるチャンスが多い大阪高校を受験し入学しました。しかし、この一年間、私が思っていたよりチャレンジをしていないと思います。少し後悔しています。その中でもチャレンジしてよかったこともあります。それはクラスの代議員をしたことです。私は、立候補する人がいなかったら立候補しようかなと思いついて代議員を引き受けました。入学当初のクラスをまとめることは凄く大変でした。しかし、自分から提案したらみんなが意見を出してくれて助かりました。代議員の仕事は最初、軽い気持ちで始めたことでしたが、それは私にとっていい成長になりました。みんなの前に出るのは苦手でしたが、少しずつ得意になってきました。二年生になっても人前に立つことを恐れずクラスの中心でまとめることができるようになりました。また、多くのことにチャレンジしていきなりたいと思います。

『成長』

大林 夏緒 (吹田市立山田中学校出身)

私は小さい頃から人前で何かをしたり、みんなを引っ張ったりするのがとても苦手でした。自分のそういうところがとても嫌で、高校に入って少しでも成長出来ればいいなと思い入学しました。大阪高校に入学し私は、中学校時代に経験できなかった部活に入ることになりました。どの部活に入るか迷いましたが、憧れがあった男子バスケットボール部のマネージャーになることにしました。部活は毎日あるし、想像していたよりきつくて大変な日々でし

た。だけど試合に勝った時や周りのチームメイトから感謝の言葉をもらって達成感を感じ、マネージャーをしてよかったと思いました。私は部活面でも成長できたと感じます。また、学校生活の面でも前に出て発表するのが好きになり、沢山の素敵な友達を作ることができました。入学するまでは友達もできるか不安だったけど今では大阪高校に入学して本当に良かったと思います。

『この一年間で私は』

名原 颯介 (門真市立第二中学校出身)

私はこの一年間で勉強を頑張りました。中学校の時はあまり勉強が得意ではなく成績もそこまで良くありませんでした。高校でも部活を中心に頑張りたいと思ったので、高校受験時もあまり勉強せず入学しました。高校に入ってから初めての定期考査で、中学の時と変わらない点数でクラス順位も高くなかったです。しかし、大阪高校には一年生からたくさん進路ガイダンスがあり、希望大学に行くためには勉強が必要だと気付くことができました。私は、進路ガイダンスを受けた後から勉強を頑張リクラス順位を十五位から六位まで上げることができました。今までは自分は楽な方にと逃げていましたが、高校に入って勉強などの自分のあまり得意でないことに向き合うことの大切さを学びました。

『この一年で私は』

武内 蒼依 (高槻市立第二中学校出身)

この一年で私は、物事に対する考え方が変わったと思います。入学当初の私は、勉強や目標などは必要ないと思っていました。しかし、学校生活を過ごして、ある一つの目標ができました。それは、教育に関する大学に進学することです。

大学に進学するとなっても、私は勉強にまったく自信がありませんでした。中学でも毎回低い点数を取っていました。しかし、大阪高校には指定校推薦という方法があると知り、自分でも大学に進学できると分かりました。しかし、成績がものすごく重要だと聞き、絶望を感じていました。そこから私は、高校での成績の重要性を知り、評定平均を0.1でも上げられるように、提出物や授業態度を良くすることを頑張るようになり、4.0以上をとることができました。しかし、それに満足はしておらず、今は4.5を目標としています。

この一年で目標を作ることができた私は、目標のためにできることが目に見えるようになったことで、自分がしないといけないことが分かり、日々頑張ることができるようになりました。人は一年間あれば、物事の考え方が変わり、良い方へ進むことができると知りました。

『1年間で変わったこと』

長倉 大和 (豊中市立第一中学校出身)

私がこの大阪高校に入って変わったことは、勉強とクラブに対する気持ちです。

勉強では、一学期のテストの成績が全然良くなって、クラス順位もとても低かったです。一学期の成績が低かったのが悔しくて、二学期はとても頑張つて勉強し、クラス順位を十一位も上げることができました。それから勉強のモチベーションが上がリ、少しずつ楽しくなってきました。

野球部では、最初AチームとBチームがある中のBチームで、中々調子も良くなく、やる気が全然出ず、全力プレーをすることができていませんでした。しかし、ある時、監督に「野球ノートが書いていない」と指導を受け、その際に助言をしてくれました。

「実力はあるんだから日々の野球の態度、ノートをしっかりと書けるようになればきっと良い選手になれる」

その時に私は変わりました。Bチームにいる自分がとても嫌で、Aチームに入りたいと強く思い、努力をしました。すると、段々と試合で結果を出せるようになり、Aチームに入ることができました。

私は目標を達成するためには、二つの大切なことがあると思います。一つ目は自分のモチベーションを上げることです。モチベーションが上がると「もっと努力しよう、もっと良くなりたい」と前向きな気持ちになるからです。二つ目は努力をすることです。努力をして報われるとは限らないですが、努力をしていることを誰かは必ず見ているし、努力しないよりは絶対良くなると思います。

これらのことから、私は来年も、どのようなことにも努力を忘れずポジティブに、全力で取り組む人になります。

『挑戦』

早瀬 羅末（豊中市立第七中学校出身）

私が大阪高校に入学して成長できたことは、一つでも多くのことに挑戦するようになったことです。

中学生の頃から生徒会執行部には入っていたのですが、思っていることを発言できないまま活動が終わってしまい、後悔がありました。そのため、高校ではまず何かをしようと思い、クラス代議員に立候補しました。初めての高校生活で分からないことが多い中、クラスの代表となり色々していくのは緊張しましたが、代議員をしていくうちにクラスをまとめることにも慣れていきました。文化祭の時は、様々な子と話し合い、一年H組らしいオリジナルストーリーが出来上がって、無事に成功することができました。終わったあとは達成感がありました。本番までの時間が全然なくて成功するか不安でしたが、最後まで諦めずに練習して良かったと思います。

何かに挑戦して、何かを作り上げることはすごく楽しいと感じられたので、二年生でも色々なことに積極的に取り組みたいです。

『私の成長』

歴舎 千翔（大阪市立大桐中学校出身）

私は、中学生の頃はそこまで勉強ができるわけではなく、好きな教科以外は平均点を超えているくらいで、特に英語は平均点より低く赤点ギリギリでした。大阪高校に入学する時に、英語を頑張ると心に決めて入学し、先生方の助けもあり、英語のテストで九十点以上を取り、クラスで一位になることができました。また、全教科で、総合コースの学年三位になることもできま

した。その他にも、英語が苦手だった私が英検二級に受かることもできました。そのため、私の次なる目標は二年生の間に英検準二級に受かることです。その他に成長したことは、積極的に物事に参加する姿勢が身についてきたことです。昔の私は、周りの目が気になって物怖じしてしまい、自分から積極的に話に入っていくことができませんでした。しかし今では、周りの目を気にせず、話に入っていくことができるようになりました。

これからも主体的に日々の努力をして、三年生になった時に後悔しないように頑張ろうと思います。

『成長したこと』

中園 颯太（茨木市立北中学校出身）

私はこの一年間を通して大きく成長することができました。成長したことは主に二つあります。一つ目は、クラスの代議員に立候補して、一年間頑張れたことです。私は自分から行動することが苦手でしたが、それを目標にして取り組むことができました。最初はとても不安でしたが、積極的に挑戦しました。その中で大切な友人と出会えたことが、私の高校生活で大きな喜びになりました。クラスをまとめたり、代議員で集まり、文化祭や体育祭などの会議をして頑張ることができました。二つ目は、学習面の成長です。自主学習に取り組むことを頑張りました。学校では課題があまりなく、その代わり小テストがたくさんありました。英単語や漢字などの小テストは、通学の電車の中で勉強しました。私にとっては少しでも成績を上げる貴重な時間になりました。そのおかげで小テストはだいたい高得点を取ることができました。定期テストでは、放課後に教室で残って勉強をしたり、家でも自主的に勉強を頑張ることができました。定期テストの順位、クラス内の順位が分

かるので、テスト勉強をもっと頑張って順位を上げる気持ちでいっぱいでした。順位が分かることで自分の成長を見るのがとても楽しくて、勉強のモチベーションを上げるきっかけになりました。そのおかげで化学で学年一位を取ることができてとても嬉しかったです。自分に自信がいたことが良かったです。成長は、生きていく中でとても大切なことです。だから、色々なことに挑戦したり、たくさん努力したりして、頑張り続けます。

『克服』

井町 勇太（大阪市立井高野中学校出身）

私は人見知りで新しい友達ができるか不安でした。入学式前から不安で夜も寝れませんでした。入学式を迎えて教室に入ると、同じ中学校出身の人がいてとても安心しました。その日はその人として話さず新しい友達を作ることはできませんでした。しかし次の日から二泊三日で行ったオリエンテーション学習合宿で多くの新しい友達をつくることができました。その時には自分から声をかけてみることも大切だということに気がつきました。自分から声をかけて話すと、色々な人と仲良くなることができました。その合宿で多くの友達ができると、それからの学校生活が大きく変わりました。昼休みに一緒にカフェテリアでご飯を食べたり、文化祭で写真を撮ったり、席が近いクラスメイトと授業のグループワークで話したり、とても楽しく過ごすことができました。私は最初の合宿で人見知りを克服し、多くの人と話すことができるようになって自分を変えることができました。

『友達』

高橋 眞瑚（大阪市立東淀中学校出身）

私は、この一年間で友達との関わり方を学びました。中学校では、幼稚園からずっと一緒の人たちといたので、あまり人間関係を広げようとは思いませんでした。しかし、高校生になったらたくさん友達を作ろうと思っていたのですが、入学してすぐのオリエンテーション学習合宿では風邪を引き行けなくなって、高校生活の最初からどん底でした。不安がいっぱいで合宿終わりの学校へ行くのが嫌でした。しかし、クラスの子が話しかけて来てくれて仲良くなることができました。また、その後も体育祭や文化祭を通じて仲良くなったり、コラゼミやオープンスクール企画運営委員に参加してできた友達など、たくさん友達をつくることができました。

私は高校生になったらたくさん友達をつくるという目標を立てていました。高校に入ってから以前より、友達の性格や友達の個性を自分なりに理解できるように距離の縮め方を考えることができた一年でした。この経験をこれからの生活に生かしていきます。

『この一年で私は』

牛房 奏（茨木市立東雲中学校出身）

私が大阪高校に入学して大きく変わったことは「性格」です。

中学生のときは、自分の思っていることを正直に言うことが苦手でした。嫌だと思っても相手にどう思われるか怖くて、なかなか正直に言えませんでした。そのせいでストレスが溜まって、中学校での生活は楽しくないこともありました。ところが大阪高校に入ると、周りの人が自分の意志をはっ

きりと伝えていて、その中で私も自然に自分の思っていることを相手に伝えることができるようになりました。ストレスも以前より少なくなり、学校生活も楽しくなりました。

自分の思っていることを伝えることができるようになったことで、人間関係も良くなり信頼できる友人も沢山出来ました。ときにはすれ違うこともありましたが、思いを伝えることで、一生の友達だと思える人もできました。大阪高校でこのような友人ができ、入学してよかったと思います。

『成長』

南野 亮太郎（摂津市立第三中学校出身）

私が一年間で変わったことは、自分で目標を設定し、その目標を達成するために努力ができるようになったことです。

中学校のときにも、目標を決めて近づける努力をしていたのですが、目標を決めた時点で、満足してしまいました。例えば、「この大会に出場する」、「何位になる」と目標を立てても、達成するための努力が十分にできていたとは言えない状況でした。他にも、テストで「この点数を取る」と決めても、結局ほとんど勉強せずに終わり、平均点程の点しか取れていないこともありました。このような経験がある人は多いように感じています。

しかし、私は高校に入学して、目標を決めるだけでなく、実現に向けて行動するようになりました。以前の自分では考えられない変化で、すごく価値のあることだと思っています。今の私は、今後の高校生活でどんな成長ができるのか楽しみにしています。

『新しいことに挑戦し続けた一年間』

余井 媛香（大阪市立天満中学校出身）

高校に入学し、私はこの一年で、どのような成長をしたのかを考えてみました。新たに会う人が多く、人との接し方を考えながら、自分も成長できた一年間だったと思います。

以前の私は、物事に積極的に取り組むことが苦手だったので、高校に入学したら、そこを改善していきたいと思っていました。部活動に入り、学校での練習以外に、自宅や外部での練習にも力を入れて、真剣に頑張ったと自信を持って言えるくらいに努力を重ねてきました。

「勉強、部活動、自分磨き」この三点が高校に入学するときに力を入れていこうと考えていたことです。この一年は、やりたいことだけでなく、やってみてもいいなと思うことには、迷いながらも、チャレンジすることができました。これからも新しいことに積極的にチャレンジしていき、いろんな場面で成長していきたいと思っています。

『新しい環境と友達』

羽生 新琴（大阪市立市岡中学校出身）

この一年間で私は、中学校から高校という新しい環境になり、その中で新しい友達ができきました。今まで九年間「義務教育」だったのが今年からはなくなり、高校生活は短いと母から聞いていたので、これからの二年間をどう充実させようかと考えていました。慣れない環境で緊張して友達もできるか不安だった入学式から約一年経った今では、学校に行くのが毎日楽しいと思えるようになりました。それはこの一年間クラスでの生活、行事に取り組ん

でできた友達や先生との関係によってできたと思います。テスト勉強は苦手でしたが、友達がいるおかげでテスト期間も楽しい日々を過ごすことができました。そのおかげでテストの点数も大幅に下がることもなく成績も順調にキープすることができてうれしかったです。来年はもう大学のことを考えないといけない時期に入りますが、私なりにこの三年間を有意義に楽しみたいと思います。

『この一年間で私は』

杉田 蒼（大阪市立城陽中学校出身）

私が大阪高校に入学して、中学校の頃の自分よりも成長することができたところは二つあります。

一つ目は、勉強に対する姿勢です。私は中学生の頃はテストの点もなかなかとれず、勉強しても良い点は取れないと諦めていました。しかし、大阪高校に入学して最初のテストで良い点をとれるように努力して、いい結果で終えることができました。その経験から、中学生の頃は「どうせできない」と勉強もテストも諦めていた自分でも頑張ればできるんだという自信に繋がります。次のテストでも良い点を取ろうという意志が芽生えて、中学生の頃と比べてテストに手を抜かなくなり真面目に取り組めるようになったことが、私がお阪高校に入学して成長することができた一つです。

二つ目は、自分で考えて行動することができるようになったことです。高校生になったことで、中学生の自分よりも責任感を持つとういう意識が生まれました。中学生の時は、自分に自信がなく、どんな時でも他人に頼ってしまうことが多かったですが、この一年間で中学生の頃よりも発表の場が増えたり、自分で選択しなければならぬことが多かったため、一年

前の自分よりも強い責任感が生まれました。

この一年間を振り返ってみて、元々あまり自信がなかった私にとつては、成長できたと自信をもって言えることもすごいことだと思います。しかし、自分でもまだまだ成長できる部分はあると思っています。なので、これからの一年間ももっと成長できるように努力して、一年後、自分ももっと成長して今よりも自立した人になれたらいいなと思います。そうなれるように努力していきたいです。

『委員会活動』

石下 悠斗（大阪市立新東淀中学校出身）

私はこの一年間で大きく成長することができました。そのきっかけは、オーブンスクール企画運営委員会、略してOS委員会です。OS委員会とは中学生に大阪高校の魅力を知ってもらうためのオーブンスクールで、自分たちの手で企画を考え運営する、そういった委員会です。

どんな活動が自分の成長に繋がったのかというと、第二部生徒企画のマスケットキャラクター練り歩きでの活動です。企画を運営する中で、自分は中学生と接する機会が多かったため、来てくれた中学生にオーブンスクールを楽しんでもらうためには、どういったおもてなしや対応をすればいいのか、こういったことを常に考えていました。考えた答えを実際にオーブンスクールで使ってみて反応を確かめると、反応が良かったことを覚えています。時と場合によっておもてなし方法を変え対応することが、楽しんでもらうために大切なことだということを学ぶことができた良い経験だと思います。

今後私は、このOS委員会での活動で得た経験を活かして、他の委員会や係活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

『高校に入学して』

藤田 結菜（摂津市立第三中学校出身）

私は、この一年間でとても成長できたと思います。理由は二つあります。

一つ目は、『諦めない心』です。中学生の時は、部活、テスト、受験などで、途中で諦めてしまことがたくさんありました。その為、何も成長できずに終わってしまったたり、思い通りにいかないことが多々ありました。今思うと「なぜあの時、最後までやり遂げなかったのだろう」と後悔することが沢山あります。だからこそ、高校に入学してからは「絶対に後悔したくない」という気持ちが強くなり、何をやるにも最後までやり遂げるようにしています。その結果、担任や顧問の先生にも褒めてもらえることが増えました。改めて、諦めないことは本当に大切ということ、努力をすれば、認めてくれる人がいるということが分かりました。

二つ目は、『友達の大切さ』です。昔から友達は大切とわかっているつもりでしたが、本当の友達の大切さを教えてくれたのが、高校でした。辛いときはみんなが自分のところにきて相談に乗ってくれたり、自分が間違っている時は、ちゃんと指摘してくれます。そこから私は、すぐに友達の意見を否定したりするのではなく、しっかり相手の気持ちを考えることができるようになりました。このように現在も友達に感謝して学校生活を送っています。

『この一年間で私は成長した』

坂井 駿大（豊中市立第三中学校出身）

私が大阪高校に入学して成長したことは、挨拶、礼儀、声、感謝の大切さを理解できるようになったということです。私は、硬式野球部に所属してい

ますが、挨拶、礼儀、声、感謝を大切にしています。一年前の中学三年生の時では、学校の先生に毎日元気よく挨拶をしていたとは思えません。それに礼儀も声も出し周りの人への感謝もできていたとは思えません。しかし、挨拶や礼儀の大切さを学んだ今では、当たり前のように声を出して挨拶、礼儀、感謝の気持ちをもつことができるようになり、充実した学生生活を送ることができるようになりました。スポーツでも、学校生活でも、うまくいく秘訣は普段の自分の私生活と繋がっているんだということがわかりました。自分は、大阪高校硬式野球部に入学してよかったと思います。

『1年の振り返りと目標』

井手 虹花 (今治市立西中学校出身)

私はこの1年間で部活(日本拳法部)を頑張りました。高校に入学する前に、1年生で入賞することを目標にして入学しました。1年生で入賞することは、とても難しい、負けて当然と言われたけれど、毎日休まずに部活に行き、部活以外の外部でも練習して、入賞するために必死に努力しました。夏の全国大会では3位に入ることができ、総合選手権大会では準優勝をとることができました。しかし、両方の大会で大高の3年生に負けて、まだまだ届かない存在なんだと感じました。私はその先輩に憧れて大高に入学しました。先輩達は2年生の終わりから、負けなしで勝っていると言っていました。私ももっと努力して、勝ち続けて、憧れの先輩と言ってもらえるように、頑張りたいと思います。私の今後の目標は、春と夏の全国大会と総合選手権大会で優勝して連覇することです。

『勇往邁進』

植西 くるみ (茨木市立南中学校出身)

私はこの1年間で振り返ってみると、何もやり遂げることができなかったなと思います。私がこの高校に来た理由は、小学生の頃から続けている陸上競技部に入学し、中学生の勢いのまま高校に入っても大阪府で1位を取り続ける為でした。しかし、中学3年生の秋から高校生になるまでの期間で腰の疲労骨折をおこしてしまい、今まで積み重ねて来た努力が一瞬にして崩れてしまいました。どれだけ頑張っても、中学生の自分には届かなくて、正直今では怪我をしてしまった過去の自分と、陸上に対する気持ちが弱まっている今の自分へのちよっとした怒りが私の目標を邪魔している気がします。なので、今私にできることは、努力した自分を信じることだと思います。自身を信じられなくて強くなれるはずがないので、自分を信じ続けて前向きに頑張っていきます。

『1年間の継続』

一馬 久悟 (高槻市立第四中学校出身)

私は、この1年間で継続する大切さを学ぶことが出来ました。大阪高校では、陸上競技部に入りました。周りには推薦の人が多くいました。自分のタイムより一分以上速い人や、中には二分以上速く走る人がいて、入部当初は、この人たちに勝てるのかと毎日思っていました。それでも少しでも近づけるよう朝練習に他の人より早く来たり、補強の回数を少し増やしたり、授業をしつかり受けたりと本当に小さなことですが、そういったことを1年間継続してきました。気がついたなら推薦の人と一分もあつたタイム差がなくなつて

いて、いつのまにか成長することが出来ました。それでもまだまだ自分より上の人が多くいるので、少しでも継続させていくことを増やして、駅伝のメンバーに選ばれるようにしていきます。

『夢』

古屋 喜市（大阪市立瑞光中学校出身）

高校生になってから約一年が経った今、この一年間で変化したと感ずることが二つあります。

一つ目は画力の向上です。少し話は逸れますが、私の将来の夢は漫画家です。この夢を叶えるために、私はこの一年間の目標として「漫画の賞に一つ以上の漫画を投稿すること」を挙げていました。そのために私は、一年間ずっと絵の勉強をしていました。結果的には目標を達成することはできませんでしたが、しかし、その代わりに絵の勉強に集中したことで、かなり画力が向上しました。

二つ目は友情です。私は「画家になる」という夢を周りの人に言わずにここまでできました。なぜなら、バカにされると感ずたからです。確かに、漫画家という夢は、かなりハードルが高いものです。そのため、「そんなものになれるわけがない」と言われると思っていました。しかし、実際この夢を友達に言ってみると、全ての友達が応援してくれました。この経験を通して、一年間で私の中の友達というものに対しての変化を感じました。

今後の目標は、今まで通り継続し、学校の勉強もしっかりやりつつ、次の一年間で必ず目標を達成しようと思えます。

『この一年間で成長したこと』

大塚 優奈（吹田市立第三中学校出身）

私がこの一年間で目標にしていたことは「ポジティブに生きること」です。私がこの目標を立てた理由は、ポジティブな方が挑戦の幅が広がるし、ポジティブな方が確実に幸せは寄ってくるし、ネガティブは自然と嫌なことに目を向けてしまふと思うからです。

私は高校に入って全く違う環境になり、悩むことも増え、いろいろな物事に対して考えることが多くなりました。悩んでいる時は自分のことで精一杯になり、周りの声も聞かえないくらい考えることもありました。でも、悩みも少しずつ整理できて、時間が経った今だからこそ思うことがあります。それは、それだけ自分に考える力がついたということです。誰にだっていいことや辛いことはあると思います。その時は休めばいいし、たくさん泣いたらいいと思います。それは自分の成長につながるからです。

ネガティブでいるよりポジティブの方が楽しくなるということです。

『次のステップに向けて』

渡辺 樹音（大阪市立東淀中学校出身）

私は大阪高校に入学してから変化したことがあります。

一つ目は学習習慣です。中学校の頃は勉強するという習慣が全くありませんでした。しかし、大阪高校に入学してから、とても勉強が楽しくなり、毎日勉強する習慣が付き始めました。多い時には一日に十時間勉強することもありました。

二つ目は将来の夢の実現に向けての意識です。入学する前は特に夢はなく、

将来は適当に仕事をすると考えていました。しかし、大阪高校に入学してから人に勉強を教えることが多くなり、友達に教えるのが上手と言われるのがうれしくていつも教えていました。それから勉強を教えるのが好きになり、将来は学校の先生が塾の先生になりたいという将来の目標ができました。

大阪高校での一年間は次のステップの第一歩だと思っています。この一年間で大きく成長できたと思います。

二年生では、夢の実現にもっと近づけるように勉強に励みたいと思います。

『部活動と勉強の両立』

黒崎 楓 (寝屋川市立第八中学校出身)

私はこの一年間、部活動と勉強を頑張ってきました。大阪高校に入学するとき、勉強面では「テストで学年順位が十位以内に入ること」、部活動では「みんなを引っ張って強くすること」を目標にしていました。大阪高校に入学し、初めての中間テストでは学年十一位で十位以内に入れなかったけれど、一学期の期末テストから学年二位を取り続けることができました。部活動は、五月末からダンス部に入部し、初めてのジャンルに挑戦しました。八月に一年生の初めての作品ができ、そのときから一年生のリーダーになりました。作品をつくっていくなかで、ぶつかり合いなど多々あったけれど、それを乗り越えてみんなで良い作品をつくることができました。部活動は忙しいけれど、欠席はほぼせず、勉強との両立もできました。

今後の目標は、テストで学年一位を取ること、部活動の大会で入賞することです。勉強と部活動の両立は大変だけれど、どちらももっと上を目指して頑張ります。

『高校三年間の目標』

高木 都和 (大阪市立高倉中学校出身)

私が大阪高校に入学したときの目標は一つで「成績を上げる」ということでした。今、できたかどうかは点数をつけるとすれば、六十点です。ほぼ毎日図書室が家で自習をしていました。その結果、元々好きだった歴史は評定で5を取れたり、他の教科も全体的に向上しました。しかし、最も苦手な数学は上がらず、むしろ低くなってしまうこともありました。原因は明白で、私が好きな教科ばかり学習し、苦手な教科から逃げてしまっていたからです。今後は、好きな教科は変わらず成績を上げ、特に苦手な数学と英語も重点的に頑張っていきたいと思っています。そのため週二回必ず数学と英語のどちらかを勉強するということを決めました。そして目標点数を決め、それに向けて努力するということを決めました。今後はこのことを頭に入れ、目標達成を目指していきます。

『成長』

大手 夏波 (吹田市立第五中学校出身)

私はこの一年間でとても良い友達が出来ました。初めは、お互い人見知りです。話すことが気まづかったけれど、性格は真反対なのに考えていることが一緒だったり、好きな曲のジャンルが同じでだんだん素が出せるようになってきました。私はとても人見知りなので、自分から話しかけたり、話題を出すのが苦手だったけれど、その友達に会っていろいろな生徒に話かけられるようになりました。その友達はいつも笑わせてくれて、何かあったときは、放課後もずっと一緒にいてくれます。その友達に会うだけでとても元気が出

て、出会って一年しか経っていないけれど、こんな良い友達が出来ました。そして私は前まで得意な科目がなかったけれど、この一年で数学Ⅰと化学が少しできるということに気がきました。だから二年生では、もっと苦手から得意に変えられるように、勉強を頑張り、もっと友達を増やせるように頑張ります。

『1年で私は』

吉田 咲幸 (菅屋市立精道中学校出身)

私がこの1年間で変化したと思うことは、やりたいと思ったことを行動に移し、少しでもチャレンジできたことです。私は外国に興味があり、外国の人と関わってみたいと思っていましたが、機会があつても行動することができず悩んでいました。そんなときに、2学期の最後にホームステイ受け入れのポスターを見て、今までだったら絶対に挑戦しなかつたと思いますが、初めてやってみたいと思い、行動に移すことができ、成長したと感ずることができました。ホームステイの実施はもう少し先ですが、これをきっかけに何かを変えることができればいいなと思います。今の目標は、明確にはありませんが、自分がやりたいと思ったことは、やっていきたいです。1年間で変わったことは少ないですが、人見知りも減って、友達も多くできてとても楽しく1年を過ごすことができ、自分としてはたくさん変化を感じられる1年でした。

『出会い』

金山 奈央 (大阪市立夕陽丘中学校出身)

私は友達を作ることが苦手なので、新しい環境でやっていけるか心配でした。しかし、2学期の半ば頃に、クラスの友達と、思っていることを互いに言い合う機会があり、そのことをきっかけにクラスの仲間と出会えて良かったと本当に思えるようになりました。これからもずっと仲良くしていきたいし、そんな友達と出会えたことで自分自身も大きく変わったと感じています。また、この1年間で、できていないことに対して焦りを感じられるようになり、やらなきゃいけないこと、やりたいことを見つけることができました。この変化からも、私は大阪高校での出会いに本当に感謝しています。出会いの大切さや、それによって生まれた私の変化が、大阪高校に入学して良かったと思える一番の出来事です。2年生に進級し、今まで不安だと感じていた新しい出会いが少し楽しみです。

『変化』

植田 桃月花 (大阪市立玉津中学校出身)

私は、この1年を通してたくさんの変化を感じることも成長した部分があります。大阪高校に入学する前のオープンスクールで、OS委員の先輩方の姿に惹かれました。他の高校とは違い、生徒一人ひとりが主体的に行動している姿がとてまかつこよく、私も入学したらOS委員に入ると決めていました。憧れていたOS委員としての活動が始まり、最初は知っている人が少なく、自分の役割を果たせるのかとても不安でしたが、委員として行動していくに連れて不安が希望へと変化していきました。委員としての活動以外にも、

夏期講座やコラゼミ、ラボなど気になった取り組みに積極的に参加していきましました。入学前の自分では考えられないような数の挑戦や体験を行動に移せたことが、この学校に入学して良かったと感じるところです。2年生になっても主体的に行動し、たくさんの人と関わり、楽しい学校生活にしていきたいです。

『自分から』

藤山 結菜（豊中市立第十五中学校出身）

この一年間で私は、中学生の頃からずっと苦手だったことを克服することができました。

私は中学生の頃は人前に立つて何かをしたり、自分から進んで物事に取り組んだことがなくて、大阪高校に入学したときも不安と緊張でいっぱいでした。そんな私が大阪高校で唯一、自分から進んで取り組みたいと思ったことは、大阪高校のオープンスクール企画運営委員会でした。初めて大阪高校のオープンスクールに行ったときに驚いたことが、生徒が主体になってオープンスクールを行っていたことでした。先輩たちが、学校について不安だったことや知りたかった話を優しく教えてくれて、そのカッコイイ姿に憧れて私は大阪高校に入学したいと思いました。

このことから私は、オープンスクール企画運営委員会に参加し、とても大変ではありましたが、夏休みや放課後に集まって、同じグループの先輩方と色々な話をしたり、自分が中学生のときに教えてもらったように案内をすることで、何か新しいことに挑戦して進むことに喜びを感じるようになりました。

高校生になって、自分と違う考えを持つ、今まで関わりのなかった人達に

出会えて、私一人では考えることができなかった世界に触れて、何事にも挑戦してみることが大切だと分かりました。

『一年間』

原田 美来（大阪市立市岡中学校出身）

この一年間で私は、たくさんの経験ができました。まずは勉強です。中学校までは、テストの点数が低くても進級することができたので、そこまで勉強へのやる気がありませんでした。しかし、高校生になると成績が悪ければ追試があります。その追試も身だしなみが整っていないと受けることができず、進級ができなくなる可能性があります。私は今まで以上にテスト勉強や提出物にしっかりと向き合う時間が多くなりました。向き合ってみると、今までできなかった問題が解けたときは嬉しいし、先生に褒められるのもっと頑張ろうと思えるようになりました。

次に友達です。高校に入って、知り合いが数人しかいない中で友達を作れるのが不安もありましたが、今はたくさんの好きな友達に囲まれ、助けられ、毎日楽しい日々を送ることができています。今までの成功や失敗、辛いことや楽しいことがあったおかげで、今の大好きな友達と過ごせているので、今までのことも全て良かったと思えます。まだ入学して一年しか経っていませんが、今の仲の良い友達を大事に、これから出会っていく人とも最高の毎日過ごせたらいいと思います。

『この一年間で私は』

山本 宝良（大阪府立三国中学校出身）

私は大阪高等学校に入学して、人としての成長や身体作りをしたかったので部活に入りました。

部活はバレーボール部に入りました。入った当初は練習を休みがちだったので、周りが成長していき私だけが置いていかれている気がしたので、頑張って毎日部活に行くことができるようになりました。バレーボールは高さが大事なので、ジャンプ力を上げるために頑張っていました。しかし、なかなかジャンプ力が伸びず悩んでいました。それでも部活は休まず、毎日コツコツと練習しました。十月中旬にポジションをレフトから、難しいセッターに変更しました。ある練習試合の時、私はセッターではなく元々のポジションであるレフトで試合に出ました。しかし、レフトの練習をしていなかったのです。スパイクは打てず、サーブカットもできない状態でした。そのことがあまりにも悔しくて、今まで以上に部活を頑張ると決めました。そのおかげで、一月中旬にはジャンプ力も以前より上がり、サーブカットも少しずつ安定させることができました。難しいトスを上げる練習もしています。

人は難しいことがあるとやる気がでて、頑張ろうという気持ちになるんだなと学ぶことができました。

やまじり

この冊子は、2023年度大阪高等学校に入学した1年生が、年度の終わりに自分の1年間を振り返って自分の成長を改めて考えたことを言葉にしたものです。大阪高等学校では入学にあたって、それぞれの学年で大切にしたいことをキーワードにして皆さんに提示しています。

この学年では「生きる・楽しむ・敬う」という三つの動詞を大切にしたいキーワードとして提示しました。

とかく社会の流れや他人の評価を規準として自己の行動を選択することの多い都会の現代社会人として、自分の人生を自分のものとして認識し「生きる」とは、どんなことなのかを問いながら生活してほしい。そしてその認識を持ったうえで人生を「楽しむ」。高校生であるという人生の現時点で、周囲の人々を「敬い」、対話をしながらよりよい生活を作り上げてほしいという思いです。

それぞれに綴ってくれたこの文章には「成長」「挑戦」という言葉がたくさん出てきます。

これまでできなかったことができるようになること。今まで見えなかった世界が見えるようになること。

入学してからの1年間で、まさにその事をそれぞれのやり方で経験している彼らの生の声には多くの勇気をもらつてことができます。その成長、その歩みはもちろん本人のものであり、日々成長するその若々しい姿はまぶしくも感じます。

特にコロナ禍に中学時代を過ごした彼らにとって高校での新たな生活、挑戦は非常にワクワクするものであったことを文章から感じるることができます。

もちろんこの冊子に掲載されていない生徒の文章もあります。それには紙面の関係で惜しくも掲載できなかったものも、この1年間での変化・成長をうまく言葉にできなかったものもあります。また、成長できなかった、何も変わらなかったことを綴ったものもあります。どんな文章であれ、生徒たちは自分なりの格闘をしています。挑戦したけどできなかった、十分に行動できなかった、中学と何ら変わらない生活をしていた、など。

この1年間だけが生徒の人生ではありません。この文章を書いた1年生は現在2年生。この1年、そしてその次の1年はもちろんのこと、その先の人生の方がはるかに長い。長い人生の中で、学び続ける人物になってほしい、と私たち大阪高校職員は考えています。そのため様々な取り組みがあり、そこでの成長については生徒の文章を見ていただければお分かりいただけると思います。

私たちの生活は日々の積み重ねです。日々自分に向き合い、挑戦し、そのことで互いに刺激を与え合い成長していく。我々教職員も同様に刺激を受け、与えながら成長していきたいと考えています。

第一学年主任 木ノ脇 求



「この1年間で私は・・・」
～第1学年～



発行日 2024年3月31日 発行

発行 大阪学園大阪高等学校
第1学年

発行所 大阪市東淀川区相川2-18-51
TEL. 06-6340-3031

印刷 株式会社 T-PLUS